# ハイライトレポート

2025, 10, 7

# メモリICトレンドから読み解く ストレージとメモリモジュールの未来展望

# メモリICの市況と技術トレンドの最新状況を把握されたい方に

メモリICは様々な要因により市況が変動してきました。アプリケーションの変化による需要の増減や、メモリメーカ各社の方針による供給の調整など、複数の要因が複雑に絡みあっています。そのため、最新の市場動向を継続的に把握する必要があります。また、アプリケーションの高度化に伴い、メモリ技術の進化は加速しています。これらは、メーカの販売戦略に大きな影響を与え、メモリ市況変動の要因となっています。本ウェビナでは、メモリICを購入する立場であるモジュールメーカの目線で、最新の市場動向と技術トレンドについて、メーカの成功事例を交えてご紹介しました。

# メモリ市場全体の状況

近年、メモリ市場をAI関連事業が大きくけん引しています。 主にデータセンタ向けの需要が急増しており、それに伴いメモ リベンダ各社は次世代メモリであるDDR5やHBMへシフトし ています。大手ベンダがDDR4からDDR5への移行を加速し た結果、現在DDR4の供給量は減少し、供給逼迫と価格 高騰が発生しています。

### NANDとDRAMの技術トレンド

組み込み向けSSDやSDカードに使用されるNAND Flashは、3DのTLCが主流です。特に、3D NAND技術の1つであるBiCS Flashにおいては、ADATAを含む多くのメーカがBiCS5を主力製品として採用しています。今後は、より高性能・高密度なBiCS8への移行が見込まれています。さらにはBiCS8をベースに低消費電力と高性能を両立させたBiCS10の発表もあり、技術革新が加速しています。

また、次世代メモリであるDDR5やLPDDR5では、従来のUDIMMやSO-DIMMに加え、多様なフォームファクタが登場しました。モジュールとしての容量は最大で256GBを実現し、サーバやデータセンタ向けR-DIMMでは128GBの高容量化が進んでいます。

# ADATA TRUSTAのご紹介

TRUSTAはADATAが創設したエンタープライズ向け製品のブランドです。主な用途はAIサーバ、エンタプライズサーバ並びにデータセンタ向けの製品となります。

SSDは最大で7.68TBの容量を搭載、エンタープライズ向け標準規格「EDSFF」に準拠しています。また、15.36TBの製品の検討も進めています。

DIMMはDDR5を中心に、最大容量128GBまでの R-DIMMのフォームファクタを採用した製品をラインナップして います。

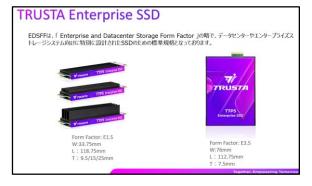
#### ■ 本日の登壇者 ■



エイデータテクノロジージャパン株式会社 大越 恒平 氏 IA 日本事業部 営業部 プロジェクトマネージャー



エイデータテクノロジージャパン株式会社 志気 剛 氏 IA 日本事業部 技術部 ディレクター



#### ADATA TRUSTAのご紹介 出所:上記資料より一部抜粋

